

## 特別研究の内容とその成果

	特別研究	年度	統括責任者	助成額	シンポジウム		書籍
						開催年度	
第1回	子どもの発育と生活に関する国際的比較研究	1979年～1982年	小林登 東京大学医学部教授	3230万	親と子の絆 － 6つの学際的アプローチで探る －	1982年	親と子の絆
第2回	個性と才能に関する研究	1980年～1983年	藪内百治 大阪大学医学部教授	4500万	個性と才能 － 創造性豊かな人づくりをめざして	1983年	子どもを伸ばす－個性と才能、The Growing Child in Family and Society
第3回	21世紀の大都市像－その日本的あり方を求めて－	1981年～1984年	柴田徳衛 東京経済大学教授	3744万	21世紀の大都市像	1985年	21世紀の大都市像
第4回	21世紀高齢社会における福祉と保健についての総合的研究－活力ある高齢社会を目指して－	1981年～1984年	福武直 社会保障研究所所長	9491万	21世紀高齢社会への対応 － 社会的・医学的方途を探る－	1984年	21世紀高齢社会への対応
第5回	家族関係における子供の健全育成に関する研究	1981年～1983年	河合隼雄 京都大学教育学部教授	1750万	子ども・文化・社会 － 子どもをより深く理解するために －	1983年	子どもと生きる
第6回	子ども文化の文化人類学的研究	1982年～1985年	岩田慶治 国立民族学博物館教授	5147万	世界の子ども文化	1985年	世界の子ども文化、子供文化の原像
第7回	水資源の保全に関する研究	1982年～1985年	吉良竜夫 滋賀県琵琶湖研究所所長	6000万	水資源の保全 － 琵琶湖流域を中心に－	1986年	水資源の保全
第8回	文化教育としての環境教育の総合的研究	1984年～1987年	加藤秀俊 放送大学教授	5300万	環境教育 － 家庭・学校・社会－	1987年	日本の環境教育
第9回	日本人の国際化推進に関する研究－国際性豊かな青少年育成のために－	1986年～1989年	澤田昭夫 筑波大学教授	5348万	日本と日本人の国際化	1990年	日本人の国際化
第10回	ストレス社会と心の健康－高度情報社会における健康な生き方を求めて	1986年～1989年	早石修 大阪医科大学学長	8478万	ストレス社会と心の健康	1990年	ストレス社会の心と健康
第11回	都市の文化開発に関する総合的研究	1988年～1990年	上田篤 京都精華大学教授	6400万	マスメディアとしての日本の都市	1991年	マスメディア－大衆文化都市としての日本－
第12回	首都圏における水資源の開発と保全に関する総合的研究	1989年～1992年	高橋裕 芝浦工業大学教授	6399万	首都圏の水の将来を考える	1993年	首都圏の水－その将来を考える
第13回	超高齢化社会における地域と企業のあり方に関する研究－高齢者にとって生きがいのある地域社会の創出を目指して	1991年～1994年	福田垂穂 明治学院大学教授	6299万	高齢化社会における地域と企業の新しい関係を目指して	1994年	高齢化社会の地域と企業
第14回	農業と環境に関する総合研究－持続可能なシステムを求めて－	1991年～1994年	久馬一剛 京都大学教授	6000万	農業と環境 － 持続可能なシステムを求めて－	1995年	農業と環境
第15回	青少年の成長に関与する日本の教育力の学際的総合研究	1991年～1994年	祖父江孝男 放送大学教授	6000万	日本の教育力を考える	1995年	日本の教育力
第16回	瀬戸内海における有用水産資源の持続的生産と環境保全に関する学際的研究	1992年～1995年	岡友利 香川大学学長	7000万	瀬戸内海の水産業と環境 － その持続可能な発展のために	1996年	瀬戸内海の生物資源と環境